

デイリー・ジーザス・ニュース #216

イエスはラザロを死から蘇らせる
ラザロがベタニアで亡くなる間、イエスはペレアに留まる
ヨハネ11. 1-6

1さて、ラザロという人が病気でした。彼はベタニア、マリアとその姉妹マルタの村の出身でした。2兄弟のラザロが病気で横たわっていたこのマリアは、後に主に香油を注ぎ、髪の毛で足を拭った人と同じ人です。

3そこで姉妹たちはイエスにこう伝えました。「主よ、あなたがいつも愛しておられる方が病気になっています。」

4なぜならこれを聞いたイエスは言われた。**「この病気は死に至るものではない。それは神の栄光のためであり、神の子がこれによって栄光を受けるためである。」**

5イエスはマルタとその姉妹とラザロを心から愛しておられた。6それで、ラザロが病気であると聞いて、イエスはそこにさらに二日間留まりました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

| コンテキストダイジェスト | |
|--------------|---------------------------------|
| 位置 | ペレアのどこか |
| タイムライン | 3月（38月） |
| イエスの生涯の文脈 | 第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教 |
| | B. イエスはラザロを死から蘇らせる |
| タイトル | 1. イエスはペレアに留まり、ラザロはベタニア（ユダヤ）で死ぬ |

コメント：

この朗読で描かれている4日間は、ペレアにおけるイエスの集中的な宣教期間の終わりでした。2月末、イエスは間もなく30番目の奇跡を行うところでした。

エルサレム郊外のベタニアでラザロを蘇らせた後、イエスはユダヤ郊外でしばらく過ごし、その後、受難週のためにエルサレムへ最後の旅に出ました。この旅では再びペレア地方の一部を通過しましたが、それはほんの数日間でした。

デイリー・ジーザス・ニュース #216

今日の朗読は、ヨハネによる福音書第11章にある、イエスのこれまでの宣教活動における最大の奇跡、ラザロの復活の物語から始まります。それはラザロの死から4日後、すでに遺体が腐敗し始めていた時に起こりました。したがって、これはイエスの地上での宣教活動において、肉体的なレベルで起きた最も超自然的な奇跡でした。

この「しるし」の靈的な意味は、イエスの宣教活動の中でも最も偉大なものでした。それは、イエス自身の愛と復活を、おそらく他のどんな奇跡よりも明確に示していたのです。この奇跡は、（ヨハネが物語の最後で指摘しているように）イエスの宣教活動の中で最も強い直接的な影響を与えました。ユダヤ人指導者との対立を引き起こし、それがイエスの死に直接つながったのです。

あらゆるレベルで、ヨハネによる福音書第11章は最も深い啓示の1つであり、イエスの生涯の転換点です。

がラザロを生き返らせた状況を紹介するとともに、イエスの言動すべてに浸透している基本原則を示しています。

主がペレアで宣教を続けていた時、マリアとマルタから、兄弟ラザロが重病に倒れ、死の床に伏せているという知らせが届きました。姉妹たちは絶望の中でイエスに連絡を取り、イエスが来て兄弟を癒してくださいると信じていました。そして賢明にも、ラザロに対するイエスの深く変わらぬ愛に訴えました。

イエスは、この知らせがご自身の宣教の頂点、すなわちご自身の死と復活にとって極めて重要であることを即座に悟られました。この病気は御子の栄光のために父なる神が定められたものであり、それゆえ死に至るものではありませんでした。

ヨハネは、冒頭の節（11章3節と5節）で、イエスのラザロへの愛を二度強調しました。これは、福音書の読者が、たとえ状況やタイミングがそうではないように見えて、イエスが宣教活動において行ったすべての行為は、イエスの愛の表現であったという原則を理解するためでした。これは、ヨハネによる福音書11章を理解するための鍵の一つです。

の愛が神を信じる人々の人生にどう作用するかという普遍的な真理が貫かれています。ヨハネによる福音書全体を通して、人々はイエスに願い求めます。やがて、あるパターンが生まれます。イエスは彼らの最初の願いを無視するか、「いいえ」と言います。そして後になって、大きな「はい」という答えを与えます…それは、彼らが最初に尋ねたときには想像もできなかつた、はるかに大きな答えです。

第1章の最初の弟子たち、第2章の最初の「しるし」となる奇跡、第3章のニコデモとの会話、第4章の井戸端の女、第5章の中風の男の癒し、そして第6章の5000人の人々に食事を与えるという出来事は、すべてこのパターンに従っています。それぞれの状況において、人々はイエスに一つのことを求めますが、与えられません。しかし、最終的には、イエスから何か別の、しかし計り知れないほど素晴らしいものを受け取ります。

デイリー・ジーザス・ニュース #216

このパターンは、この箇所で頂点に達します。兄弟の命が死の床で消え去ろうとしていた時、姉妹のマルタとマリアは、手遅れになる前に彼を癒してくださるようイエスに懇願します。しかし、イエスはまたもや彼女たちの願いを無視したようで、ラザロは息を引き取ります。

姉妹たちはこの「ノー」という返事に悲しみと混乱に打ちひしがれましたが、それでもイエスへの信仰を搖るぎなく持ち続けました。ありがたいことに、「ノー」は、彼女たちが想像していたよりもはるかに素晴らしい「イエス」への前兆に過ぎませんでした。なぜなら、イエスは最初からラザロを死から蘇らせ、癒すつもりでいらっしゃったからです。

臨終の奇跡的な治癒よりも素晴らしいものは何でしょうか?それは復活です。

ずっと良くなりました!

そこでイエスはマリアに言いました。 「信じるなら神の栄光を見るだろうと、私はあなたに言ったではありませんか。」

ラザロが死後4日で墓からよみがえられたという「より大きなはい」の答えは、イエスのそれまでの宣教活動全体の中で、神の愛と力と栄光を最も壮大に示しました。イエスの最初の「いいえ」は、はるかに大きな「はい」へつながりました。

「ノー」 = 「イエス」というテーマを目を引くように繰り返して、ヨハネはイエス・キリストの愛と恵みについての素晴らしい教訓を私たちに教えています。

彼の主張は、私たちが神に願いを捧げる時、「ノー」という答えは、決して「ノー」ではないということです。それは、私たちが願った時に思い描いていたよりも、神がさらに素晴らしいものを用意してくださっていることを意味します。神は、私たちが神の無限に偉大な「イエス」を逃してしまうという悲劇から救うために、一時的な「ノー」を与えてくださるのです。

神はラザロ、マルタ、マリアと同じように私たち一人ひとりを愛しておられるので、神の力と知恵によって考え出せる最高のものを私たちに与えてくださいます。

イエスは満ちあふれる潮よりも力強い恵みに満ち溢れているので、私たちが自分自身でそれに値しないにもかかわらず、またそれよりはるかに少ないものを求めているにもかかわらず、イエスは私たちに最善のものを与えてくださいます。

この真実は私たち全員に当てはまります。

応用：

あなたは今、神からのどんな「ノー」の答えに苦しんでいますか？

あなたはその「ノー」を、神があなたに与えようとしているもっと大きな「イエス」の始まりとして見ていますか？

デイリー・ジーザス・ニュース #216

どうすれば、失望を、これからもっと素晴らしいことが起こるという希望に満ちた期待に変えることができるでしょうか？